

サバイバル ゲーマーズ スポット

【シャングリラ】

総 覧

第Ⅰ部 概 要

第Ⅱ部 総 則

(兼 ルールブック)

令和3年度版

発行者

サバイバル ゲーマーズ スポット【シャングリラ】

運営役員会

《はじめに》

当地“サバイバル ゲーマーズ スポット 【シャングリラ】”は法的には“任意団体”（同じ目的をもつ人々でつくる、法人格をもたない団体）に該当します。ここには各地より数多くのサバイバルゲーマーが集いサバイバルゲームに興じることになる訳ですが、それが故に任意団体であっても、そこには運営上一定の規約（みたいなもの）が必要不可欠と言えます。

そこで平成16年10月に“総覧・初版”という形でまとめ、発行しました。その後運営役員会によって、数度の訂正・追加・変更等が加わり、その都度、規約にのっとりホームページの掲示板に記載し、周知に努めて参りましたが、平成18年に至り、フィールド移転、“銃砲刀剣類所持等取締法施行令の一部を改正する法案（以下 改正銃刀法 という）”の施行に伴い、その大幅な見直しが必要な状況に直面します。

さて、その改修作業にあたりまして、運営役員会で採択された原文を追加することを基本とすべきではありますが、全体的な関連性に不具合が生じたり、つじつまがあわない箇所が随所に見受けられたり、項目によってはそっくり差し替えなければならなかったりしているのが現状との見解と、更に、これを機会に新たに設けたい項目も何点か指摘されていたので、“総覧の改訂版”と言うよりはむしろ新規に作成しなおす、と言う観点から、平成19年4月“新総覧”を発行するに至ります。

その後、運営役員会、最高責任者（CEO）の職務・権限の見直しや、役員人事の大幅な変更に伴い、平成20年4月に“改訂・新総覧”を作成したものの、更なる時の経過、周辺環境の変化、諸般の事情、エアガン進化等々を鑑みると、より実情に則した運営形態を維持して行く為には、機に応じて見直しや修正は欠かせないものと認識せざるを得ず、この時点で改めて原点に立ち返り“サバイバル ゲーマーズ スポット シャングリラ 総覧 平成24年度版”を新規に作成し、同年4月よりこれに基づき運営して参りました。

そして、早くも5年という歳月を経て、いささか等閑（なおざり）になった感は否めませんが、この間の様々な変化を直視し、これに伴う変更を明文化することにより、【シャングリラ】の今後の発展とその一翼を担うことを期して、ここに“サバイバル ゲーマーズ スポット シャングリラ 総覧 平成29年度版”を刊行することとします。

（平成29年4月）

本来なら上記第Ⅱ部総則11．補足④には『原則的に2年に一度見直しをする』ことになっていますが。図らずも担当者の怠慢により発行に至らなかったのは深く反省するところです。それからさらに2年が経過し、今回令和3年版の発行に際しては、この4年間を振り返り、改めて修正・訂正・加筆をメインに見直すことを主眼にまとめ上げ刊行することといたします。

（令和3年4月）

《本書の用語について》

- ① “サバイバル ゲーマーズ スポット【シャングリラ】” と
“【シャングリラ】”
- ② “サバイバルゲーム” と “ゲーム”
- ③ “サバイバルゲーマー” と “ゲーマー”
- ④ “銃砲刀剣類所持等取締法施行令の一部を改正する法案” と
“改正銃刀法” はそれぞれ同意とします
- ⑤ “officer” は『役員』を意味します。当地には6名がその任に就いて、運営役員会の職務を分担したり、ゲーム開催時の進行役（以下“ゲームコンダクター”と言う）を務めるほか、参加者の皆様からの様々なご意見を聞き取り、それを運営役員会へ反映する等の活動をしています。
- ⑥ “運営役員会” は『上記6名の officerによって構成される【シャングリラ】の運営に関する重要事項の協議、決議を司る機関』で、当地の円滑な運営と参加者拡大を目標とし、対外的な交流の窓口としても役割を担います。
- ⑦ “CEO” は上記運営役員会によって選出され、【シャングリラ】に関わる一切の最高責任者として、これを総轄します。
- ⑧ “副CEO” はCEOの指名により上記運営役員会の中から選出され、CEOの指示によりその職務・職権を代行します。
- ⑨ “ウィークデイ・サバイバルゲーム” は【シャングリラ】の活動の一環として認証されていて、定例開催日（毎週日曜日）以外の平日に開催されます。開催日は不定期ですが、事前に“老兵・スーのホームページ”とSNS（mixi）上にて公表し、運営、進行等については本誌に準じます。
- ⑩ （注）は本文の意味を説明したり、補足するための文言です。

第 I 部 概 要

《設立の経緯》

尾張北西部で個々に活動をしていた“チェックメイト”“莫大小（メリヤス）”“バンディッツ”という3チームが、僅かばかりのレギュレーションの違いを協調し合えば、サバイバルゲームに対する基本的な見解・方針は一致するので合同で開催するようになりました。（平成15年10月）

その基本的な見解とは『サバイバルゲームをアクティブ、スリリング、エキサイティングに展開し、かつ安全面での十分な配慮を怠ることのない、節度・良識のある“大人のスポーツ”と認識すること』です。そして、その方針とは『上記見解に協調・賛同するサバイバルゲーマーが集うためのフィールドを確保・設営し、定期的にゲームを開催し運営し続けていくこと』です。

そしてその活動拠点となる当地を“サバイバル ゲーマーズ スポット【シャングリラ】”と命名し、同時に同名のホームページを公開するとともに本格的な活動を開始しました。（平成16年2月）

《活動の初期》

活動を開始したとはいえ、当時はまだ規約とかルールとかについては、ホームページに記載された程度のものに依存していたというのが実情で、明文化されたものは持ちあわせてはいなかったのですが、それでも、時の経過とともに次第に各地から個人の方をはじめ、チームの皆様にもお越しいただけるようになり、ありがたいことに参加者数も増加するようになって参りました。

このような状況になると、当然初お目見えのゲーマーが同じフィールドでサバイバルゲームに興じる機会も増えることになり、お互いがよりゲームを楽しむ為には、明確で統一性のある文書化されたものが不可欠と判断し、“総覧”という形でその初版を発行し公表するに至った次第です。（平成16年10月）

《“総覧”初版の方針の施策》

総覧が担う大きな役割のひとつは、【シャングリラ】の方針について、その施策を明示することにあります。

（以下は要約）

サバイバルゲーマーの必須アイテムであるエアーガンのパワーアップ・カスタムアップとそれをゲームにしようすることを認めていました。ただ、その上限値は、エアーガンの種類によって長年の試行錯誤の結果から得たレギュレーションという数値で設定していたのは当然です。

参加されるゲーマーの大きな関心事は当地の雰囲気にあるに違いありません。その意味で『同好会的な感覚（ノリ）』を損なわないよう配慮をしました。

安全面での防具については、機会ある毎にその重要性をアピールし、常に万全の装備を推奨しています。

（当時）使用させていただいていたフィールドはサバイバルゲームを開催するには極めて恵まれた環境にあったことをご参加くださったゲーマーの多くの方達もおそらく十分納得されたことでしょう。

と、これによりまがりなりにもそれなりの体裁は一応整ってきました。

《活動の継続》

こうして活動を続けていく過程で、『【シャングリラ】では毎週日曜日にはサバイバルゲームを開催している』ということが広くゲーマーの間に知れ渡るようになっていきました。参加者各位の熱意に支えられ、この頃にあっては現実に降雨による中止以外ではゲームが開催出来なかったことは一度もありません。（参加人数の多い少ないはありますが・・・）これは、個人であろうとチームであろうと、『あそこへ行けばゲームが出来る』と思っただけの様な事になっただけでも非常に大きな意味を持つ“実績”と理解しています。

そこへ毎週のサバイバルゲームに極めて熱心に参加してくれる2つのチームが登場します。そしてその参加回数が増えるにつれ、次第に【シャングリラ】のサバイバルゲームに対する基本的な見解・方針は一致するとの認識が双方に生じ始めた頃、毎週のゲーム終了後に officer の有志でおこなっているミーティングにて、「そろそろ【シャングリラ】への参画を・・・」と言う話が極めて自然に取りざたされるようになってきたので、その旨を運営役員会にはかかったところ、満場一致で【シャングリラ】の第4、第5のチームとして、従前の3チームに加わってその発展的活動に携わっていただくことになりました。

平成17年11月現在、【シャングリラ】は“チェックメイト”“莫大小（メリヤス）”“バンディッツ”“HB！（はんぺらボーイズ）”“日本”の5チームが共同して、毎週日曜日に交替で、サバイバルゲームを主催し開催しています。（平成20年3月まで継続、平成20年4月より新制度に移行）

《新たな旅立ち》

このように正に順風満帆といっても過言でないかのごとく活動は継続して行くのですが、平成18年になると周辺事情・環境の変化に否が応でも対応せざるを得ない状況に直面することになりました。

江南市立植物園の開園にともない、長きに渡り関係諸官庁並びに地主様のご厚情により使用させていただいていた慣れ親しんだフィールドを離れることとなります。これは遅かれ早かれ避けられぬこととの認識はあり、運営役員会でも議題には取り上げてはいたものの、時期としてはもう少し先のことを考えていたのですが、上記工事の進行状況により駐車スペースの確保がもはや困難との判断で、何とも慌ただしいフィールド移転となりました。(平成18年4月)

そして同年8月には“改正銃刀法”が施行され、エアガンとして所持できるのは、6mm BB弾でも8mm BB弾でも0.989ジュール以下と法律で定められたことにより、その遵守のために【シャングリラ】は設立以来標榜してきたレギュレーションを大幅にダウンすることになります。(詳細は本誌 第Ⅱ部 総則 に記載)

《“新総覧”（平成19年4月）における方針の施策》

上記改正銃刀法の施行により、6mm BB弾仕様のエアガンについて言及するなら、レギュレーションの“障壁”が払拭され、他チームさんとの交流並びに新規参加者の受け入れの門戸が広く開放されることになった訳です。故にある意味ではこれからが真の【シャングリラ】“らしさ”を問われる重大な時期にあたる、とも解釈できます。

であるなら、むしろこれを好機到来ととらえ、従前同様常にサバイバルゲームの醍醐味＝面白さを見出す努力を怠ることなく、今まで培ってきたノウハウを発揮し新たなステップの糧としたいものです。

設立以降当地の雰囲気として最も大切にしているのは“同好会的な感覚（ノリ）”です。ゲーム開催時間中であれば参加者は自分の都合のよい時間に来て、都合のよい時間だけ楽しんでもらうことで構いません。好みのエアガンを使用し、好みの軍装、好みの戦法（アタッカーもよし、スナイパーもよし）で参戦可能です。決して規則・規律の“がんじがらめ”ではないし、初心者・上級者の区別ましてや“階級”なんてありませんが、だからと言って何でもかんでも好き勝手ということではなく、サバイバルゲーマーとしての当然かつ最低限のマナー・ルールはしっかりと携えていてください。

レギュレーションがダウンしたとはいえ、0.2g BB弾で0.989ジュールの威力が“安全”とは決して保障されるものではありません。くれぐれも安全面での防具は万全の装備をお願いします。特に顔面は強度の保障されているゴーグル（メッシュ、シューティンググラスでは不十分です。ポリカーボネイト製ならOK）とフェースガード、もしくはフルフェースのゴーグルを推奨しています。服装は特に迷彩服でなくても構いませんが、ケガをしない為にも、肌の露出しないように、長袖、長ズボン、帽子（ヘルメット）、グローブ、ブーツ（運動靴でも可ですが出来るだけ底の厚いもの）で臨んでください。特に夏場に時々見受けられますが、半袖、腕まくりは極力ご遠慮願っています。安全防具の不備、若しくはその他の原因による一切の万一の不慮の事故につきましてはあくまでも自己の責任において対処して頂くこととなりますので充分ご留意のほどをお願いします。

現在のフィールドは、関係官庁（国土交通省）へ届出をし、関係諸団体（中般若区、愛北漁業協同組合）の同意を得て使用させていただいています。移転に際しては、当初外見上は何とかなりそうな印象を受けたのですが、実際に一步踏み込むとなかなか“前途多難”の感は否めませんでした。それでも officer 各位並びに参加者の皆様のご尽力のおかげで、間もなく1年が経過しようとする今（平成19年4月）、次第にサバゲーフィールドとして育って参りました。ただ、どうしても以前のフィールドのよいイメージばかりが残っていて、故に少しでもそれに近づけようと、鋭意努力はしていますので、今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。程よい雑木、ブッシュがあり、比較的平坦、広さも充分、そして参加人数によっては、容易にそれに応じたフィールドを仕切ることが出来る、なんてことを理想としています。

その日のゲームが終了して、帰路につかれる参加者の内の一人でも多くの方から「楽しかった！！」とか「又、来ます！」とかのお声をかけていただくと【シャングリラ】にとりましては嬉しいかぎりであり、今後の“励み”にもなります。そして【シャングリラ】という地に一人でも多くの方に実際に参戦していただいて、ホームページやこの様な書面では伝わらない部分を“体験”された上で、私どものサバイバルゲームに対する基本的な見解・方針に賛同並びに共感を得られたら、と願って止みません。そんな皆様方の次回、次々回の参戦を常にお待ちしています。

《“新総覧”改定の経緯》

officer に役割を分担することにより【シャングリラ】の発展的活動

とより円滑な運営を意図して作成された“新総覧”でしたが、実際にはその運営母体となっていた前述の5チームのチーム内状況、officer個々の事情等により、制定初年度にして残念ながらその機能を十分に果たすことが出来ないまま時は経過しました。そして、一時は参加者数が激減しその開催さえ危ぶまれる程の窮地に陥ったのも事実です。

しかしながら、一部 officer の多大な尽力による新規参加者の増加とその運営手腕により【シャングリラ】がその設立当初から掲げてきた大命題のひとつである“毎週日曜日にサバイバルゲームを開催し続ける”ことは途絶えることはありませんでした。この活躍なしに今日を語ることは到底出来ようはずありませんから、真に賞賛されるに値すべきと言っても決して過言ではないでしょう。

新規の皆さんの参加人数並びにその参加回数が増えるにつれ【シャングリラ】の設立経緯、組織、運営等の概要を周知していただくことは当然必要であり、その為に“新総覧”を発行・配布しませぬはご理解をいただくことにしました。これを踏まえた上で、ゲーム参加者なら誰でも出席可という形で平成20年2月に“懇談会”を開催し、意見交換をしたところ、【シャングリラ】は“新総覧”に基づいて運営されていると言っても、その制定当時とはそれ自体が相当様変わりしていて、かなりの部分で実情に則していないことが従前よりの参加者は勿論新規参加者の目にも明白でした。

これらを実直に認識することと、この席上、新たな原動力と成り得る人材から運営面での参画表明を得られたことによって【シャングリラ】はその更なる発展のために自ら“新総覧”と現状との“隔たり”の是正を図ること、すなわち、組織の見直し・改訂等を行うため、ここに“新総覧”を改訂することとなり、平成20年4月に“改訂・新総覧”を発行しました。

《新たな局面の展開》

前述により磐石の体制が整ったとの思いとは裏腹に、いかなる組織であれ、これを継続、維持、運営していくことは決して容易ではありません。周辺環境、諸般の事情、参加者の増減等々、時の経過と共に絶えず変化は付き纏います。

それでも、貫きとおしてきたのは『【シャングリラ】では毎週日曜日にサバイバルゲームを開催する』ということです。(ただ“参加者不足”により残念ながら開催が出来なかったことがあったのも事実です)

その一方でかねてから、【シャングリラ】では、上記定例開催日に加えて、“新春恒例 初撃ち会”“春のシャングリラ・フェスタ”“真夏(地獄)のシャングリラ・フェスタ”と銘打って臨時開催もして参りました。その折に参加者の一部の方から「平日にやってくれたら参加出来るかも」

とのご意見を頂戴することが度々あり検討課題だったのですが、平成23年5月より試行するにあたり、この新たな局面をCEOに上申したところ【シャングリラ】の活動の一環として認証をいただくと共に、その担当責任者として、新たに2名の officer の就任についても快諾を得ました。これと時を同じくして同氏より「CEO権限により、誠に遺憾ではあるが、現行の事実上機能していない“運営役員会”並びに職務不履行の officer については機能喪失し、自然消滅したものとする。改めて3名を再選し、前述の2名を加入とする」旨の公示が mixi（平成23年5月26日付けトピック）上にてなされたことにより、“総覧”の見直し作業に着手することになります。

これに際し特に、平日開催のゲームについては、開催日は不定期ながらも“ウィークデイ・サバイバルゲーム”として順調に推移し、ほぼ“軌道”に乗ったと言う手応えを感じるようになった（平成24年3月時点）ことから、【シャングリラ】の活動の“2枚看板”の一翼を担うものとして明示すること、officer の人事に大幅な変更があったことが盛り込まれ“サバイバル ゲーマーズ スポット シャングリラ 総覧 平成24年度版”を公表し、同時に発行しました。

《更なる発展を期して》

上記総覧のもとで、【シャングリラ】の主活動であるサバイバルゲーム開催は、その運営をより円滑かつスムーズに司るにあたり平成24年11月には新たに2名の officer の参画を得て、その尽力により定例開催日、ウィークデイ開催日いずれもより発展的に展開して今日に至っています。

一方広報面では同年11月（先の総覧では本来サブ扱いであった）“老兵・スーのホームページ”が、リニューアルしたことを受けて再び公式に認められ、mixiのコミュニティとも連動しながら週イチペースで更新することにより【シャングリラ】の様々な情報を参加者各位に公開していることも付言すべきでしょう。

この様に、通常活動が軌道にあることから、新たな発展的活動の構想が生まれます。それが平成25年10月に発足した“シャングリラ 遠征チーム B.o.S.s”の誕生です。他チームや他フィールドへの参加を通じて交流や親睦を深め、ひいては【シャングリラ】の宣伝活動を目標とするもので、担当 officer の選任とともに【シャングリラ】の活動の一環として運営役員会の承認を得ました。（令和3年3月に解消）

関係諸官庁への届け出、ご挨拶を始め、冬枯れしてスッカスカのゲームフィールドについては“布バリケード”の準備をして対応、夏場のフィールド進入路については（参加者の車にキズがつかないように）草刈りを実施（年に2～3回ほど）して対応、試射レンジの設営、フィールド

内の（不法投棄による）ごみの撤去等々、サバイバルゲームを開催するための従（サブ）活動も officer のみならず心ある有志の方々の協力を得て毎年恒例となっています。

そして平成27年に至っては、1月、5月、12月にそれぞれ1名の officer が加わり、本総覧作成時には計9名となり運営役員会を構成し活躍していますが【シャングリラ】はあくまでもご参加いただく皆様のお力添えがあって成り立っていることは今更言うまでもありません。

平成29年4月

《試練を超えて・・・更なる明日へ》

平成29年7月には有志の寄贈にて、それまで利用していた布バリケードに替えてプラ段が導入されたことにより、参加者の戦法も少しばかり変化はあったものの、総体的には大過なくサバイバルゲームは開催され続けます。（部外者のフィールド使用によりゴミが放置されたり、SNS上で“届け出”について炎上したりはありました）

その翌年には立て続けに3名の officer が辞任する一方で、新規2名の officer の就任があたりして運営役員会のメンバーは入れ替わりましたが、幸いにも機能そのものは支障なく維持し続けました。

時は移ろい時代が“平成”から“令和”に変わった頃、衝撃の通達が国土交通省より知らされます。『河川の増水対策のため（シャングリラ・フィールドを含む）木曾川河川敷の樹木を伐採する計画が決定した』というものです。フィールドが使用出来なければ当然ゲーム開催は不可能になってしまいます。ところがこの件は具体的な工期も示されないまま終始しました。今思えばこれが“試練”の兆候だったのかもしれませんが。

令和2年になると未知の『新型コロナウイルス感染症』がどんどん拡大し遂に4月『国の緊急事態宣言』が発令されたため、シャングリラ史上初の『ゲーム開催自粛』を余儀なくされます。5月に解除されしばらくは通常開催出来たものの、その後のこの年の梅雨はかなり長引いた上に開催日に決まったかのように降雨で開催が出来ませんでした。そしてようやく梅雨が明けたかと思いきや今度は半端ない“酷暑”の為、最高気温が36℃を超える予想の日は“危険防止の為”中止するという英断に踏み切ります。まさに“試練”の連続と言えるでしょう。

そしてその最たるものとして先述の国土交通省の計画が11月より開始されることになりました。ゲーム開催はもちろん試射も含めてフィールドへの進入は一切禁止です。これを受けて運営役員会にて代替地の模索を続けてはいますが、残念ながら暗礁に乗り上げているのが現状です。

最悪工期が終わる来年3月に現行フィールドに戻れるとしても、どのように様変わりしているかは想像も出来ませんし、果たしてその使用届け出を受け付けてくれるのか、フィールドとして使用出来る状態なのか

も定かではありません。(本書作成時点)

この“波乱”の年も暮れようとするころ、以前から度々取沙汰されていた運営役員会内にて世代交代を計るべき、との意見が大勢を占めるにあたり極めて円満にCEOが交代することとなりました。そして、その指名により同会内に“副CEO”として2名が就任し、それぞれが定例サバイバルゲーム、ウィークデイ・サバイバルゲームを担当することにより新体制がスタートすることになりました。

これらを鑑みると、この1年は真に【シャングリラ】にとって“試練”の年だったと言っても過言ではないでしょう。それでも本年に至っては新体制のもとこれらを乗り越え“更なる明日へ”希望を持ち続けたいものです。

今回制定する“サバイバル ゲーマーズ スポット シャングリラ 総覧 令和3年度版”が、更なる発展の一助にでもなれば、と願って止みません。

令和3年4月

《参考》“総覧”の改訂年次表

平成16年10月	“総覧”初版
平成19年4月	“新総覧”
平成20年4月	“改訂・新総覧”
平成24年4月	“総覧 平成24年度版”
平成29年4月	“総覧 平成29年度版”
令和3年4月	“総覧 令和3年度版”

第Ⅱ部 総 則

(兼 ルールブック)

1. 名称

当地の名称は“サバイバル ゲームズ スポット【シャングリラ】”とする。(以下、【シャングリラ】 という)

2. 参加資格者

第Ⅰ部“概要”にある基本的な見解・方針に賛同並びに共感をいただいた上で、以下に述べるルール・マナーを守っていただける18才以上の個人又はチームの方です。性別は問いません。

(注) 18才未満の参加は保護者同伴かつその同意書(別紙)があれば認めることとします。この場合使用出来るエアガンは法律の定めによるものとする。

3. 存立趣意

ビギナーからベテランまで、常に広く参加しやすい受け入れ環境を堅持し、かつそれぞれのレベルでエンジョイ出来る雰囲気作りに努め、その参加者数を少しずつでも増加させることによって、サバイバルゲームを、他の大衆スポーツと同様、安全でかつ楽しいスポーツであることをひろく一般社会にアピールし、認識してもらえるよう努めることを旨とします。

4. ゲーム開催・中止の案内

ソーシャル ネット ワーキング システム“mixi”にコミュニティを設け、これにより開催情報を提供する。降雨等によるゲーム開催の可否は、可能な限り担当 officer が同サイトに書き込みますが、原則ゲーマー個々の判断に委ねるものとします。

5. **ルール** in the GAME

① レギュレーション

a) “メインウェポン” と “サブウェポン”

メインウェポンは、ハンドガン、いわゆる長物（マシンガン、アサルトライフル、スナイパーライフル）等の種類は問いません。又、その発射方式（フルオート、セミオート、バースト、コッキング）、及び発射するために使用する気体（エアー、ガス）とその圧縮方式（電動、手動）も問いません。すべて、上限値は改正銃刀法の規制値の範囲内とします。

サブウェポンは、上限値を 0.6 ジュール（0.2 g B B 弾で初速 77.4m/s）以下の物とします。

これはメインウェポンの『如何（いかん）』に関わらず、“近接戦”用の装備として必ず携行するように努めてください。（ただし、初心者等の方で新たに購入の必要がある場合には、猶予期間を認めます）

b) 使用できる B B 弾の重さと種類

フルオートガンは 0.2 g まで、セミオートガンは 0.25 g まで、コッキングガンについては 0.3 g まで使用可とします。

ちなみに前述のジュール値を初速換算しますと、0.2 g B B 弾で 99.4m/s、0.25 g B B 弾で 88.9m/s、0.28 g B B 弾で 84.0 m/s、0.3 g B B 弾で 81.1m/s、となります。

B B 弾は直径 6 mm の“バイオ弾”のみ使用可、プラスチック B B 弾の使用は不可です。

（注） 8 mm B B 弾については、ゲームコンダクターに申し出をし、その許可があれば使用可とします。

c) マガジンの種類の呼称と使用について

多弾数マガジンは、電動又は手動による“巻き上げ給弾機能”がついたもの、ノーマルマガジンは圧縮したスプリングの反動のみによる給弾機能を有するもの、ロングマガジンはノーマルマガジンと同じ扱いとします。すべて使用可です。

d) 弾数制限

メインウェポン、サブウェポンとも、1ゲームに使用出来る弾数の上限は特に定めません。

(注) ただし、ゲームコンダクターが明らかな戦力差を是正するために制限が必要と認めた場合はその指示に従ってください。

e) ゲームに持ち込めるガンの数

メインウェポンは2丁まで携行可、サブウェポンは最低1丁とします。

f) レギュレーション値の測定方法

エックスコーテック社製 X 3 2 0 0 を使い、その説明書にある計測方法に従い 0.2 g B B 弾を用いて計測し、セミで5発発射し、その内の1発も 0.989 ジュール (初速にして 99.4 m / s) を超えないこととする。

g) 外部ソースは、改正銃刀法の規制値の範囲内で、使用を可とします。

h) モスカート、グレネードについては、その装弾数に関わらず使用可としますが、安全上の観点から特に至近距離での使用に際しては十分に配慮してください。

② チーム分け

a) チーム分けは、ゲームコンダクターの采配のもとで行うものとし、自己都合による特定チームへの参入並びに入れ替わりは認めません。

b) チームを区別するためのマーカーは各自で用意してください。市販のマーカーを推奨しますが、赤・黄のビニールテープ又はガムテープでもOKです。マーカーの巾は2 cm 以上のもので、左右の上腕部 (又は手首) 等によく見える様にとめて下さい。

c) ゲームの推移によってチームの戦力に明らかな『差』がある場合には、ゲームコンダクターの判断によりメンバーのトレード等によって均衡を計ることがありますのでご了承ください。

③ ゲーム方式

- a) 殲滅戦（使用するウェポンの発射方式を限定しない、フルオート、セミオート、コッキングいずれも可）
- b) 殲滅戦（使用するウェポンの発射方式をセミオート、コッキングに限定）
- c) 殲滅戦（使用するウェポンをハンドガンに限定）
- d) バトルロワイヤル戦（使用するウェポンを限定することがあります）
- e) 弾数制限戦（上記 a～d を弾数を制限して行います）
- f) その他、面白そうなゲーム方式がありましたらご提案ください。

④ ゲームの開始と終了

各チームがそのスタート地点の半径 5 m 以内に集合し、互いに声を掛け合い、『スタート』の号令でゲームが開始されます。
この『スタート』の号令から 10 分で 1 ゲームが終了です。
通常、この後陣地を入れ替えてもう 1 ゲーム行い、これを『1 セット』と呼び、これが終了するとインターバルになります。
ただ、稀に 2 セット連続とか 3 セット連続ってこともありますので、ご注意ください。

⑤ ヒット

敵が発射した BB 弾を、直撃弾・跳弾を問わず身体の一部あるいは装備品、所持しているガンの何れかに被弾したものは、即座に出来るだけ大声で『ヒット』を宣言するとともに大きなジェスチャーで“戦死”をアピールしなければなりません。そして少なくとも片手、出来るだけ両手を挙げ、他のゲーマーの邪魔にならないように速やかにセーフティゾーンにもどります。（この時、ゴーグルはじめ安全面での防具ははずさないでください）
不幸にして味方に撃たれた場合（フレンドリーファイヤー）も同様です。

“相撃ち”の時は基本的に両者“戦死”とします。

“戦死者”は戦死した時点で、敵・味方の区別無く一切の情報を提供するような発言は禁止です。死して語らず！！

⑥ 『フリーズコール』 = 被弾によらない“戦死”

当地では『フリーズコール』を認めています。これは近距離での接射による危険を避ける為です。これが成立するのは、静止している相手がある後方又は側面から接近した（概ね2～3m）射撃体勢を整えている自分の存在に気がつかず、反撃の余地がない時です。極めて当たり前のことですが、『フリーズコール』された方は通常ヒットと同様“戦死”を認め退場することになります。（この場合ヒットコールはしてはなりません）

又、稀にですが、射撃体勢をとって静止している自分の正面に、その存在に気づかずに相手がもう撃てないくらいの距離まで接近してきた場合も同様とします。

ただし、まかり間違っても反撃体勢をとろうとか、逃走しようとした場合には、止むを得ませんので射撃にてゲットしてください。

これらとは別のケースで、たまたま出くわしてしまったとか、気がついたら相手が正面にいたとかの場合にはやはり接射による危険を避けるために俗に言うところの『あうんの呼吸』ってやつで、両者潔く“戦死”するということを推奨していますが、もちろん撃ち合っても構いません。

⑦ ゾンビ

被弾したにもかかわらず『ヒットコール』をせず“戦死”を認めない場合は“ゾンビ”という汚名を被ることになります。

今さら言うまでもありませんが、サバイバルゲームは数あるスポーツの中で数少ない“審判（レフェリー）”のいない『自己申告制』の競技なので、あくまでも紳士的な態度で臨むのが大前提です。

“ゾンビ”行為に対しては、基本的に無意識にしてしまったものと“善意”に解釈するよう努めています。例えば、ブッシュ越しですとか、逃走途中であるとか、スタートダッシュ時であるとか、装備品とかに直撃弾ならまだしも跳弾だったりするとかという場合にはなかなか解かりづらいこともあるからです。

しかし、あくまでも“ゾンビ”は明らかな反則行為であります。複数の明白な証言を得られる場合には当日のゲームコンダクター（進行役）又はCEOもしくは副CEOに報告をしてください。要注意ですが、万が一にも当事者同士で話をすることは厳禁です。しかるのち、最悪の結果として運営役員会（後述）の合議又はCEOもしくは副CEOの判断によって過度と認められるゲーマーには誠に遺憾ながら参加を拒否することもあります。

⑧ ゲームの中断

ゲーム中のフィールド内で一般の人を発見したら、即座に『ハイカーストップ』の号令をかけてください。取り合えず次の指示があるまで全員その場で待機です。あとはゲームコンダクター（進行役）の指示に従うこととなります。

集中的な降雨により、ゲームの続行が不可能と判断される時には『ゲーム中止』の号令をかけてください。その後は上記と同じです。

6. マナー in the GAME

① オーバーキル

近年流行の“ハイサイクル銃”“超多弾数マガジン”の普及により“オーバーキル”が度々取沙汰されるようになってきました。（別に以前からもあったんですけどネ・・・）

オーバーキルの原因として考えられるのは、ヒットコールが聞き取りにくい、並びにジェスチャーが見つらいといった相手側の責任も一部にはあるのですが、耳元で電動ガンが唸りをあげていてはついつい撃ち続けることが多いみたいです。回りの味方でも敵でも構いませんから『あたってるヨー！！』とか『死んでるヨー！！』とか身近のゲーマーから声を掛けるようにつとめましょう。

そこで、最近ではフルオート銃でも“点射（指きり）”を推奨しています。でも、これは一朝一夕で出来るものではありませんので〔努力目標〕としてください。

② サブウェポン（サイドウェポン）の使用

運良くというか、匍匐前進の甲斐あってか、上手い具合に相手に接近出来、その距離がおおよそ5～8m以内であれば、“人に優しい”サブウェポンでゲットするように心掛けましょう。これも〔努力目標〕です。

これはメインウェポンの『如何（いかん）』に関わらず、“近接戦”用の装備として必ず携行するように努めてください。

③ ヒットされてセーフティゾーンにもどる時

ゴーグル、フェースガードは絶対にはずさないこと、ガンにはセーフティ（安全装置）を掛けること等の習慣を心掛けてください。

④ ガンの整備

ゲーム中に弾切れ、ガス切れ、バッテリー切れ等のないようにインターバルの間に確認をしてください。万一そうなったらハンドガンオンリーでガンバする、そしてそれもダメなら弾無しでも果敢に『フリーズ』にトライするか、最悪ゲーム終了までひたすら隠れ続けてください。これらの原因でセーフティゾーンに戻るのは好ましくありません。

⑤ ゲーム中の給弾及びバッテリー、ガン、マガジンの貸し借り

ゲームに持ち込めるBB弾はマガジン、給弾器内のものはもちろんBBボトルからの給弾も可です。

ガン、バッテリー、マガジンにつきましても、同一チームの“戦死していないもの”からの貸与はOKとします。

7. **ルール & マナー** in the SAFETY ZONE

① 試射 その1

ゲーム中の試射は試射レンジにても禁止です。

② 試射 その2

試射は決められた場所で、決められた方向に向けてお願いします。

(試射をする場所には用に応じて“初速計”を設置します)

試射レンジ以外での試射は、原則禁止です。

③ インターバル

次のゲームの為にガンのチェック、給弾、バッテリー、ガスの確認等の準備を行ってください。

もちろん、自分の体を休めるもよし、一服するもよし、特に夏場には十分な水分補給は欠かさないこと、はたまた冬場には“暖”をとることも必要かも、です。

インターバルタイムはゲーム終了後おおよそ10分前後です。ゲームコンダクターが参加者の“顔色”(体調)を伺いながら次の指示を出します。

④ ゲームの不参加の表明

ガンその他のトラブルで次のゲームに参加出来ないゲーマーはその旨を速やかにゲームコンダクターに申し出てください。このゲーマーの為にゲーム進行は中断しません。

(当然各チームに人数の差が生じますが、この為にその他の多くのゲーマーを待たせる様なことは出来る限りしたくはありません)

又、疲労等の体調不良についても同様の扱いになります。

自分の体です、決して“無理”はしないでください。(ヤボですが、多少は無理をしないと上達しないかも、)

⑤ 非戦闘時

“戦死”した時、セーフティゾーンでは、事故防止の為、銃からマガジンを抜き、セーフティ(安全装置)をかける、持ち歩く時、置く時には銃口を絶対に人や車の方向に向けないことを習慣付けましょう

⑥ 飲酒

セーフティゾーン、ゲームフィールドいずれにても一切不可とし、発見次第退去していただきます。

⑦ 喫煙

セーフティゾーンでは可ですが、ゲームフィールド内は禁煙です。

8. エトセトラ

① ごみ

必ず各人で持ち帰りましょう。(社会人としてア・タ・リ・マ・エ)

② ガンの貸し借り

見学者、初心者等でまだ装備の整っていない参加者については、“善意”に基づく貸与を認めます。

又、前述 6. ⑤の緊急時も可とします。

③フィールドへの持込はご遠慮ください

ナイフ（本物、ダミーを問わず）
貴重品、携帯電話、キー、ライター

④レーザーサイト

装着は可ですが、使用は不可です。（スコープを直視した時に集光するので、眼にとって危険です）

⑤インカム

装備、並びに使用OKです。
ただし、戦死した時以降は“当然”使用不可となります。

⑥念のため・・・確認してください

マグポーチ、ハンドガンホルスターの蓋は過激な動きの時でも落ちないようにしっかりカバー出来ていますか??

⑦服装

ゲームフィールド以外では普通の服装（平服）を推奨します。

⑧銃の持ち運び

銃はガンケースに入れるなどして、決して“ハダカ”では持ち歩かないようにしましょう。

9. 運営費

【シャングリラ】はその運営に際し、必要とされる費用を機に応じて善意の参加者から徴収することを可とする。

10. 運営役員会

【シャングリラ】にはその運営を司るために運営役員会をおく。
令和3年4月現在以下の6名の役員により構成される。

①役員名簿（姓 ハンドルネーム）

宇佐見	e t a r u	【シャングリラ】CEO
一柳	テツ	【シャングリラ】副CEO 兼 定例サバイバルゲーム担当
岩井	ガンちゃん	【シャングリラ】副CEO 兼 ウィークデイ・サバイバルゲーム担当
野口	チャボ	【シャングリラ】officer
久世	トニツー	【シャングリラ】officer
朝比奈	マンガース	【シャングリラ】officer

②チーフ officer（以下 CEO という）並びに副CEO

【シャングリラ】並びに同運営役員会を総轄するために、同会よりCEOを選出する。（下記⑪a）参照）
又CEOはその職務・職権を代行するために、同会より副CEOを指名し任命することが出来る。（下記⑫a）参照）

③CEOの職務・職権等

- a) 【シャングリラ】に関わる一切（同運営役員会を含む）を総轄する。
- b) 要に応じて、単独で副CEO又は officer を指名、任命すること、あるいは解任することが出来る。
- c) 運営役員会を単独で招集することが出来る。
- d) 要に応じて、運営役員会内あるいは他に“役”“係”を設けることと、その担当者として officer に限らず任意の者を指名することが出来る。
- e) ゲーム開催日時、場所の決定
- f) 【シャングリラ】にて開催されるサバイバルゲームのゲームコンダクター（進行役）を当日の最高責任者として指名する。
- g) サバイバルゲーム開催の可否
- h) ビジターの参加の可否
- i) 参加拒否の勧告並びに行使
- j) CEOの任期は特に定めない
- k) その他、【シャングリラ】の設立趣旨に関する一切

④ 副 C E O の職務・職権等

- a) 副 C E O は C E O の指示により、上記③ e) ~ i) を代行する。
- b) その他 C E O が指示する案件を対処する。
- c) 副 C E O の任期は特に定めない

⑤ 運営役員会内には、以下の係をおき、officer が各々役割を分担し努めることとする。その任期は特に定めない。

(又、officer の 1 名が 1 以上の係を兼務すること及びひとつの係を 1 以上の officer が共同して務めることを可とする)

a) 総務係

運営役員会の招集（日時、場所、協議内容等の開催目的を明示）、同資料の作成、議事進行、関係官庁、関係団体への届出書・同意書のとりまとめと提出、その他

b) 通信係

毎週のゲーム開催案内情報の提供、臨時開催ゲームの案内、ゲスト参加者の打診があった時には officer あて回覧する、ゲスト参加者への返礼、渉外係との連携等

c) 渉外係

ホームページの管理、初参加の個人・チームの方の受け入れとフィールドまでの案内（一回目のみ）、通信係との連携、並びに対外戦の折衝等

d) その他運営役員会又は C E O が必要と認める係

⑥ officer の職務・職権等

- a) ゲーム開催当日の“ゲームコンダクター（進行役）”を務める。
(他の officer はそのサポートをする)
- b) 上記⑤の職務を担当する。
- c) 運営役員会の開催要求（後述）
- d) 運営役員会への出席、合議、決議権の行使
- e) 参加者からの“希望”“要望”“不平”“不満”“トラブル”その他諸々の聞き取り窓口となりそれ等を C E O 又は運営役員会に反映する。
- f) 就任時期による officer の職務・職権の差別はなく、同等とする。

- g) 緊急性を要する不測の事態について、下記⑧の b)あるいは⑧の c)の要件を満たすことが出来ず単独での対処が急務の場合は、その判断を以って運営役員会の決議とみなす。
(ただし、事後報告の義務を伴うものとする)
- h) その他

⑦ 運営役員会の職務・職権

- a) officer から提案される諸事の実施
- b) 参加拒否の勧告
- c) 【シャングリラ】の円滑な運営並びに発展的な活動、参加者の拡大に関する諸事の立案、企画、実行等事案によっては担当者の（係）の選任
- d) 緊急性を要する不測の事態の実施
=（上記⑥の g)も参照してください
- e) 必要に応じて、非 officer の運営役員会への出席要請
- f) CEO の指名と承認、辞任の承認、解任要求とその決議
- g) officer の指名と就任並びに辞任の承認、解任の決議
- h) 新規参画チームの承認
- i) 参画チーム撤収の報告受理
- k) その他

⑧ 運営役員会の開催と成立並びに決議方法

- a) CEO がその開催を必要と認めるとき速やかに開催する。
- b) officer がその開催目的を明示し、他の 3 名の賛同を得て開催要求をした場合、運営役員会は速やかに開催されることを旨とする。
- c) 運営役員会は officer の過半数以上の出席（委任状提出者を含む）を以って成立する。
- d) 電子メール、mixi のコミュニティ＝“シャングリラ会議室”にて、上記 c) の要件を満たした時は、これも開催とみなし、その決議を有効とする。
- e) 運営役員会の決議は全会一致を原則とするが、これで決しない場合は多数決によるものとする。
- f) その他

⑨ officer の就任、辞任、解任

- a) CEO 又は運営役員会によって指名された者は、本人の了解を得て、officer に就任する。
- b) officer は自己の都合による場合、運営役員会の承認を得て辞任することが出来る
- c) 運営役員会において、上記⑧ c) の要件を満たし、⑧ e) の決議により officer を解任することが出来る。
- d) CEO は単独で officer を解任することが出来る。

⑩ officer の任期・定員

いずれも特に定めないものとする。

⑪ CEO の就任、辞任、解任

- a) 先の CEO 又は運営役員会によって指名された者は、本人の了解を得て、CEO に就任する。
- b) CEO は自己の都合による場合、出来得る限り後任を推挙した上で、運営役員会の本人以外の全 officer の承認を経て辞任することが出来る。
- c) 運営役員会は CEO 以外の全 officer の署名・押印のある“解任要求書”を同会に提出し、同時に後任の CEO を指名することによって、CEO を解任することが出来る。

⑫ 副 CEO の就任、辞任、解任

- a) CEO によって指名された者は本人の了解を得て、副 CEO に就任する。
- b) 副 CEO は自己の都合による場合、CEO にその旨を申し出た後、運営役員会の承認を経て辞任することが出来る。
- c) CEO は単独で副 CEO を解任することが出来る。
- d) 運営役員会は CEO と当該副 CEO 以外の全 officer の署名・押印のある“解任要求書”を同会に提出することによって、副 CEO を解任することが出来る。

11. 補足

- ① サバイバル ゲームズ スポット【シャングリラ】にあつては平成16年に“総覧”初版を発行以降、常により現状に則したものとす為に、機に応じて幾度となく改訂を重ねて参りました。(11ページ“総覧”の改訂年次表をご覧ください)この度は先回(平成29年度版)から4年の歳月を経ての発行となります。しかしながら、これはあくまでも今までの活動を、踏襲していることに変わりはありません。従いまして、初版にもありますようにご参加いただく皆様を決して規則づくめにしようとするものではなく、あくまでも“自由”かつ“アクティブ”に活動する為の言わば“土俵”あるいは“リング”みたいなものとご理解いただきたいのは従前の通りです。各地からお越しくくださる多くのチーム・個人の皆さんに、サバイバルゲームをより一層楽しんでいただくための、一助にでもなれば幸いに存じます。
- ② 【シャングリラ】の情報提供手段は “老兵・スーのホームページ”並びに、ソーシャル ネットワーキング サービス“mixi”のコミュニティ“サバゲスポット【シャングリラ】”によるものとします。(下記④に記載のアドレスを参照ください)ゲーム参加ご希望等のお問い合わせにつきましては、出来るだけゲームの前々日までにお願ひ致します。
- ③ 【シャングリラ】とその運営役員会、並びに officer は参加者に対し、ゲーム中、インターバル中、さらにフィールドへの往路、復路も含め発生した全ての事故、怪我につきましては一切責任を問われないものとします。万一の不慮の事故、怪我に際しましてはすべて“自己の責任”において処理をしてください。
- ④ 【シャングリラ】の発展的活動の為あるいは周辺事情・環境の変化、そしてウェポン等の進化に伴い、総覧 令和3年度版の内容は時に応じて運営役員会の責任のもとで、予告なく追加、変更、削除、補足、修正、改定されることがあります。この場合の公表方法は、
“老兵・スーのホームページ”
<http://shangurila-survival.la.coocan.jp/>
並びに
“mixi”のコミュニティ“サバゲスポット【シャングリラ】”
http://mixi.jp/view_community.pl?id=1917713&from=home_joined_community
に記載することとします。

⑤前項④の如何に関わらず、本総覧は定期的かつ原則的に2年に一度見直しをして次回は“総覧 令和5年度版”として発行することと致します。

⑥“サバイバル ゲーマーズ スポット 【シャングリラ】 総覧 令和3年度版”の発効は、令和3年4月1日からとします。

⑦“サバイバル ゲーマーズ スポット 【シャングリラ】 総覧 令和3年度版”は上記④“老兵・スーのホームページ”に同名のバナーを設けます。これをクリックすることによりPDFファイルとして取得していただけますのでご利用ください。

尚、冊子としては作成及び発行はいたしません。

⑧本文中に、同一、あるいは同じ様な内容の文章が複数箇所記載されていますが、特に“重要なこと”故、とご理解のほどよろしく願います。

⑨サバイバル ゲーマーズ スポット 【シャングリラ】 総覧令和3年度版”とホームページとは密接な関係にあります。
令和3年4月1日発効日以降、“老兵・スーのホームページ”には同管理人により順次訂正を加えて参りますのでご了承ください。

⑩サバイバル ゲーマーズ スポット シャングリラ 総覧 令和3年度版”の原本は、6名の officer 全員の自署、押印があるものとし、2部を作成し別途厳重保管することとします。

サバイバル ゲーマーズ スポット 【シャングリラ】

総覧

令和3年度版

編集者 【シャングリラ】 運営役員会

本冊子

サバイバル ゲーマーズ スポット 【シャングリラ】

総 覧

第Ⅰ部 概 要

第Ⅱ部 総 則

(兼 ルールブック)

令和3年度版

発行者

サバイバル ゲーマーズ スポット【シャングリラ】
運営役員会

に付き

令和3年3月21日運営役員会にて、詳細に検討、検証の結果、
正当かつ公式文書として全会一致にて承認されました。